

③ 十三塚遺跡

十三塚(じゅうさんづか)遺跡は、雷神山(らいかみやま)古墳や飯野坂(いひのさか)古墳群など大型古墳が集中する同じ丘陵上にあり、この地域の拠点(きょてん)的な集落であったと考えられています。昭和61年に行われた発掘調査で、古墳時代の前期(4世紀)や中期(5世紀)の住居跡が24軒(24けん)、土こう1基(1き)などが発見されています。古墳時代前期の土こうからは、石釧(いしくし)と呼ばれる腕輪(うでわ)形の石製品(せきせいひん)が東北地方ではじめて出土しています。これまで、石釧は古墳に副葬(ふくそう)されるものと考えられていたもので、集落遺跡からの出土例としてとても貴重な資料となっています。

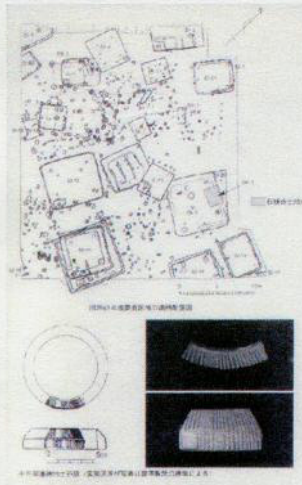
III-3-①



III-3-③-a



III-3-③-b

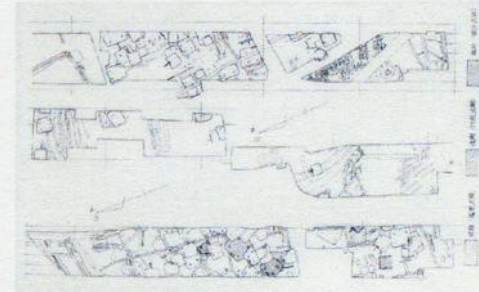


III-3-②

④ 清水遺跡

清水(しみず)遺跡は、名取川南側の自然堤防(しぜんていぼう)上に営(いひ)まれた集落跡です。昭和49年～53年の4回にわたる調査で、古墳時代の竪穴住居跡が9軒発見されています。はじめにムラがつくられたのは、古墳時代前期(4世紀)で、水はけの良い自然堤防上でした。後期後半(7世紀)になると旧河道の埋没したところにもおよび、集落の規模(きぼ)をさらに拡大(かくたい)していったようです。

III-4-①

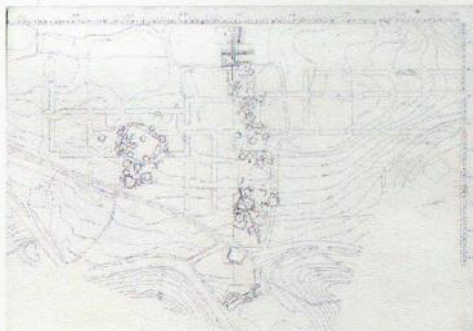


III-4-②

⑤ 今熊野遺跡

今熊野(いまくまの)遺跡は、箕輪(みのわ)丘陵の北側に位置しています。昭和46年～50年の4回にわたって調査が行われ、古墳時代のものとしては、竪穴住居跡が6軒と方形周溝墓(へくしゅうこうぼ)10基が発見されています。方形周溝墓は東北地方ではじめての発見でした。この遺跡では、丘陵の高い部分(北(きた)部(ぶ)区)に方形周溝墓群がつくられ、それらと時期が同じ集落が丘陵の低い部分(南(みなみ)部(ぶ)区)に展開(てんかい)していたようです。

III-5-①

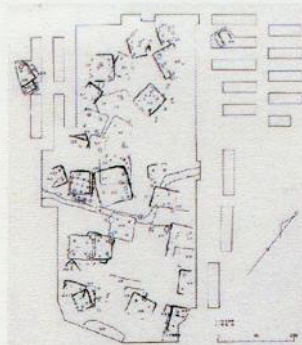


III-5-②

⑥ 宮下遺跡

宮下(みやした)遺跡は、小豆島(あずきしま)丘陵の南側に位置しています。昭和49年に行われた調査では、古墳時代の竪穴住居跡が24軒発見されています。古墳時代前期(4世紀)のものが8軒、中期(5世紀)のものが16軒で、後期(6・7世紀)のものは発見されていません。これは、前期になり集落が営(いひ)まれはじめ、中期で集落の規模がピークとなり、後期には集落が営まれなくなったことを示しています。おそらく、集落が平野部(あひら)の方に移(うつ)っていったのでしょう。

III-6-①



III-6-②



III-6-③